

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0006 名古屋市中区葵1-27-32 カイフビル7階

HD ニュース

No.9
2013.09.15

今後の予定／於：事務局会議室

9月17日(火)18:00～ マンション大規模修繕研究会

9月17日(火)19:00～ 研修会

9月19日(木)18:30～ 木造技術研究会

10月4日(金)18:30～ 通常総会(終了後、懇親会)

10月15日(火)18:00～ 相談委員会

10月15日(火)19:00～ 研修会

1年間を振り返って!

理事長 滝井幹夫

10月4日に第9期通常総会が開かれます。二代目理事長に就任して丁度1年が経つことになります。

就任に当たり、本ニュースのNo.7で触れましたがニュースの発行など、いくつかの抱負と目標を立て、その実行に努めたつもりでいます。しかし、実施・実現したものを含めて、それらは緒についたばかりです。

真に大切なことは、これらの活動が本NPO法人設立趣旨や正会員基本五原則の実現、前

進に役立つことであり、同時にそれがこの会に参加している会員にとって、誇りとやり甲斐、メリットを感じられるようになること、会の強化にも繋がることだと思います。

今総会を機に、多くの会員と活動改善の議論を行い、「継続は力なり」良いことは根気よく続けたいと思っています。

気持ちは有っても力不足の理事長です。皆さんのご支援を改めてお願いする次第です。

学区「防災セミナー」講師を務めて思う

理事長 滝井幹夫

私の居住する町内で昨年開催された「防災セミナー」に続き、8月に堀田学区で講師を務めました。いずれも名古屋市の「地域ぐるみ耐震化促進事業(10万円が上限)」を受けて地元の費用負担は無く開催出来ました。

当初の2～30人予定から大幅に参加者が増えて、約90人となりました。

これは防災に対する住民の関心が有ることに加え、直前に体感地震が有ったことや、学区役員の熱意・努力が実ったものと推察します。

濃尾平野の成り立ちや災害の歴史、安全な家造りの方法、家具固定の必要性に加えて、5月末に出された「内閣府の南海トラフ巨大地震対策の最終報告」のポイント「地震予知は困難、避難所に入れるのは半数程度で緊急度判定で選別、自助の強調、家庭備蓄は1週

間以上が必要(試算では1人約2万5千円になる)」と紹介し、実際問題は災害時に避難者に向かって緊急度判定が適正に行えるのか?自助の大切さを否定しないが4人家族だと備蓄は10万円になり、負担が大き過ぎるなど、懸念事項や今後の課題についても触れました。

今後、他の町内や学区でも同様なセミナーが開けるといいな。と思います。



本紙バックナンバーは当会のホームページ<http://www.sumaidoctor.or.jp>からご覧いただけます

昨年10月に始まった、愛知建築士会が実施する第2期ヘリテージマネージャー養成講座は、昨年8回、今年度7回、計15回にわたり講義と見学実習を行い間もなく終了しようとしています。

では、ヘリテージマネージャーとはなんのでしょうか。ヘリテージとは遺産、継承、伝承、マネージャーは交渉や世話にあたる人、管理者などの意味があります。従って私はヘリテージマネージャーとは、“歴史文化遺産伝承者”と理解します。

次に、ヘリテージマネージャー制度が誕生し、今日に至った経緯をお話したいと思えます。1995年1月17日阪神淡路大震災発生を機に、翌年1996年(平成8年)10月1日に文化財保護法の一部を改正する法律により“文化財登録制度”が導入されました。皆様の周りでも、目にした経験があると思いますが、歴史的、文化的に価値のある民家をはじめ、さまざまな建造物が社会的評価を受ける間もなく取り壊され、日々消滅しています。そして各地域には消滅の危機に晒されている、このような建造物がまだ数多く残されているのです。多種多様な歴史文化遺産を、子孫の代に継承していく事が大切だと思えます。なぜなら先人たちの慣習や知恵、そこから生まれた技術があふれる、目に見える建造物は、次の世代の人達がそこから学び、新しい文化を形成し、発展していくお手本となるからです。登録文化財制度はこのような趣旨から生まれたものです。

そして歴史文化遺産を一つでも多く発掘し、保存と活用をめざす専門家が重要となってきました。それがヘリテージマネージャーの養

成です。ヘリテージマネージャー養成は、全国に先駆け兵庫県で行われました。その後神奈川県、静岡県等に続き愛知県でも、すでに1期生が誕生しています。

これからの具体的な活動としては、10月から、文化庁の補助事業として、“愛知県歴史的建造物等の調査業務”が始まります。県下約160件の物件を、ヘリテージマネージャーが個々に分担して現地調査を行います。現状把握とその記録が目的で、建物の配置図、見取図、写真等を整理し、データ化して報告書にまとめます。



個人的には、この作業を通して所有者とのつきあい方、調査に慣れる事、そしてその建造物のどこを見るか、記録の発掘、建てられた経緯、特徴や価値を自身でどのように判断し、まとめていくかを学んでいきたいと思えます。古い建物からは時として古文書が出て来る場合があるのですが、私自身は読む事ができません。古文書の読解力を身につけるのも課題です。また建造物に内包される民俗学上の見目を養っていきたくと考えています。

現在まで脈々と何代にもわたりそこに住む人とともに、生活をささえてきた、かけがえない建造物が、いつまでもそこに在り続けてほしいと願っています。私はそのための尽力を続けていきたいと思えます。

■相談委員会 8/20 18:00~19:00

無料電話相談の相談内容報告、電話当番他。

■技術研修会 8/20 19:00~21:00

「MS工法/格子状浅層地盤改良について」講師：
コングロエンジニアリング(株)

■役員会 8/27 19:00~20:30

本年度事業・収支報告、各委員会活動現状・今後の取り組み。10/4 通常総会について。

■情報委員会 8/30 13:30~15:00

HPの運営について(サーバーの変更)等。